

No08 共働学習 解決策

義高 互

習熟度の違う生徒たちのペアやグループで不満や劣等感が出た場合に、基礎グループ構成の課題として どう解決していくか。

最も理想的なのは

「学級内、学校内の親和性を高める」ことです。

小規模で地域がまとまっている学校では親和性は高まりやすい、と思います。

どんな交流をしても相互理解があり仲が良く、負荷が少ない集団ができやすいです。

しかしこれは容易ではありません。

次は「配慮したペアづくり、グループづくり」です。支援が必要な生徒が負担にならないペア構成などです。習熟度別グループなども当てはまります。

これも手間と時間がかかるでしょう。教科学習のペア組み合わせを検討する時間はそうないでしょう。最後はグループ学習やペア学習に傾倒せず、「一斉学習も考えていく」学習活動です。

過去には一斉授業で不登校も少ない学校でした。

これに戻るといふ事です。

これも「協働学習を求める」時代の要請からしたら難しいかもしれません。

まずは「習熟度別グループ」を検討するのもよいかと思ひます。

教師から見たら習熟度の低いグループをができるのは勇気がいりますが、効果的な方策の一つと考えます。

協働学習は何をしても全てに効果のある「伝家の宝刀」ではないと思ひます。

よほど配慮し注意して使わねば、自分たちも傷つく「諸刃の刃」のように思ひます。

ただ無作為に振るべきではないでしょう。

END

グループ学習の課題解決

グループ学習の課題解決

*配慮したペア・グループづくり

不満や劣等感がないペア・グループ
考慮して親和性の高い集団をつくる
時間や集団作成の労力が必要

目的別グループ習熟度別グループ含む

グループ学習の課題解決

*親和性を高める

誰とでも どんなグループでも
気がねなく議論・活動ができる
仲良く信頼できる人間関係ができる
良好な学級・学校

グループ学習の課題解決

*様々な学習形態でおこなう

ペア・グループ学習だけでなく
個人学習・一斉授業など
幅広い学習形態で行う

